2025年度事業計画書案

自 2025年 4月 1日
至 2026年 3月31日

目 次

1. 基本方針	1
2. 定時総会、理事会の開催に関する事業	1
1) 2025年度定時総会の開催	1
2) 理事会の開催	1
3. 委員会の開催に関する事業	2
1) JAPAN PACK 2025 実行委員会	2
2) 包装学校企画運営委員会	4
3) 広報推進委員会	5
4) 産学連携WG	6
5) 技術委員会	7
6) ISO/TC 313国内審議委員会	8
7) IOT WG	8
4. 会員等諸会合の開催	8
1) 歳末特別講演会の開催	8
2) 新年賀詞交歓会の開催	9
3) 支部役員会・支部会の開催	9
5. 調査、各種情報収集・提供等に関する事業	9
1) 包装・荷造機械生産高・輸出入高の調査	9
2) 技術情報の収集・提供等	9
3) 各種情報の発信等	10
6. 人材育成、セミナー、講習会に関する事業	10
1) 包装学校	10
2) 青年部会	10
3) 各種セミナー・講習会	12
7. 国の施策に関する事業	12
1) 中小企業等経営強化法に係る証明書発行に関する事業	12
2) その他各種施策への対応	13
8. その他関連事業	13
1) 包装機械会館の運営に関する事業	13
2) 会員企業の販売促進、経営安定化に関する事業	13
3) 福利厚生に関する事業	13
4) 関連産業との連携	13

1. 基本方針

2024年度は、米中対立をはじめ、ウクライナ情勢や中東における地政学的リスク等による、資源供給への懸念が強まり、不確実性や物価上昇が経済全体に大きく影響し、成長は限定的となりました。賃上げの効果による消費の喚起も期待されましたが、それを上回る物価上昇の影響により、個人消費は伸び悩みました。

一方で企業業績は好調に推移したことから、設備投資は緩やかながら上昇傾向を維持しました。経済産業省が発表した生産動態統計（確報値）によれば、2024年度は金額ベースで対前年度比2.1%増となりました。輸出については、中国経済の低迷により回復の兆しが見えないものの、欧州および米国向けの輸出は引き続き堅調を維持しました。財務省発表の貿易統計（速報値）によると、2024年度の輸出額は対前年度比4.0%増となる見込みです。

2025年度も国内企業の業況は引き続き良好であり、設備投資も順調に回復を続けています。しかし米国による関税措置の影響が依然として不透明であり、輸出に対する懸念材料となっています。

当会は、包装機械および関連業界に関する情報収集や、国・自治体による企業支援施策等の情報提供を通じて、会員企業の事業活動がより活発となるよう努めてまいります。また、本年10月にはジャパンパックを開催いたします。引き続き、会員各位の一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2. 定時総会、理事会の開催に関する事業

定款に基づく定時総会・理事会の開催、当会内規に基づく支部役員会・支部会の開催をはじめ各事業委員会等を開催し、本年度事業の円滑かつ適切な推進に努める。

1) 2025年度定時総会の開催

定款の規程に基づき、2025年度定時総会を開催し、2024年度事業報告書ならびに決算報告書の審議・承認、および2025年度事業計画案・収支予算案の報告を行う。

月 日：2025年 5月28日（水）

会 場：鉄鋼会館 801号室（東京都中央区）

2) 理事会の開催

定款の規程に基づき、2025年5月、9月、12月、2026年3月の計4回理事会を開催し、2025年度の役員体制、事業の進捗状況、役員の業務執行状況等の確認・審議・承認を行い、事業の円滑な推進に努める。

※第371回理事会

月 日：2025年 5月28日（水）

会 場：鉄鋼会館 704号室（東京都中央区）

※第372回理事会

月 日：2025年 9月 5日（金）

会 場：包装機械会館 会議室（東京都中央区）

※第373回理事会

月 日：2025年12月 3日（水）

会 場：高知県（予定）

※第374回理事会

時 期：2026年 3月18日（水）

会 場：包装機械会館 会議室（東京都中央区）

3. 委員会の開催に関する事業

JAPAN PACK 2025実行委員会、包装学校企画運営委員会、広報推進委員会、技術委員会、青年部会等の委員会を逐次開催し、本年度事業の円滑な推進に努める。

1) JAPAN PACK 2025 実行委員会

JAPAN PACK 2025 実行委員会（委員長：安達 拓洋 氏 イーデーエム株式会社 社長）は、国内外の包装機械、包装資材、包装材料加工機械、食品加工機械、医薬・化粧品製造機械、物流機器および関連機器の新製品を展示公開し、産業の合理化および国民生活向上への寄与、貿易の振興、ひいては包装業界ならびに関係業界の発展を目的として今秋10月に「JAPAN PACK 2025 日本包装産業展」を開催するため、昨年度に引き続き各種委員会活動を推進する。

第35回を迎える「JAPAN PACK 2025 日本包装産業展」は、本年10月7日（火）から同月10日（金）までの4日間、東京ビッグサイト東展示棟で開催の運び。使用ホールは当該期間における東展示棟1～3ホールの大規模修繕工事に伴い、東展示棟4～8ホールとなる。

会場の有効展示面積は前回展（JAPAN PACK 2023）と比較して約2,260㎡の減少となり、当初の計画では400社・団体/2,000小間を目標展示規模に据える。一方、生産性向上やサステナビリティ推進を軸に包装にまつわる各種の課題解決策が希求されている背景も追い風となり、そのソリューションをステークホルダーへ披露する場として、前回展からのリピーターをはじめ、新しいプレーヤーからも多数の出展申込みを得て、出展募集締切日（2025年3月31日）現在、総展示規模は425社・2,043小間（共同出展者を除く）と既に会場キャパシティの限界まで達している。

キャッチコピーは『BEYOND | 包むで創る 人と未来と』。サプライチェーンの様々な課題に対して革新的な提案が集結する“Next Stage”の位置づけとともに、包装業界を代表する業界展の一つとして、その先の新しいアイデアや、未来を示唆するコンセプト等を発表する場の役割も果たすべく、キーワードに『BEYOND』を採用。持続可能な社会の実現のために、生産性や効率性を促す多様な新技術と繋がり、イノベーションを“包む”で創り、人と未来を豊かにするビジョンを掲げ、「包装×DX」と「包装×GX」を展示会設計の中心に置く。

展示分野のコアは包装機械ならびに包装資材・容器。加えて包装関連機器、包装材料加工機器、印刷関連機器、製造加工機器、デジタル技術等、包装および生産ラインに関するあらゆる製品、技術、サービスが一堂に会し、生産現場の自動化・効率化、持続可能な社会への対応、安全安心の実現、市場の拡大を展示テーマとして、会場内では種々の喫緊課題に対する多彩なアプローチが提案される見込み。さらには行政の動きや関係業界のトレンド、トピック等の発信も交えて、製造・流通・小売分野へ向けて商品力向上や販売力促進等に寄与するとともに、本展参画者に対してビジネス拡大の機会創出を目指す。来場者数は会期4日間で40,000人を目論む。

※第3回実行委員会

月 日：2025年 4月17日（木）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

- 内 容：1) 出展申込み状況および総展示規模について
2) 今後のスケジュールについて
3) 「包装×DX」「包装×GX」特別企画について
4) 小間割原案の承認について

※出展者説明会（東京）

- 月 日：2025年 5月20日（火）
会 場：秋葉原UDX（東京都千代田区）
内 容：1) 主催者挨拶
2) 今回の魅力と特徴について
3) 開催要旨および出展マニュアルについて
4) 質疑応答

※出展者説明会（大阪）

- 月 日：2025年 5月21日（水）
会 場：ミーティングスペースAP大阪駅前（大阪市北区）
内 容：1) 主催者挨拶
2) 今回の魅力と特徴について
3) 開催要旨および出展マニュアルについて
4) 質疑応答

※PRブース出展（FOOMA JAPAN 2025）

- 月 日：2025年 6月10日（火）～13日（金）
会 場：東京ビッグサイト（東京都江東区）
内 容：JAPAN PACK 2025プロモーション、その他

※PRブース出展（ProPak ASIA 2025）

- 月 日：2025年 6月11日（水）～14日（土）
会 場：BITEC（タイ・バンコク）
内 容：JAPAN PACK 2025プロモーション、その他

※PRブース出展（TAIPEI PACK 2025）

- 月 日：2025年 6月25日（水）～28日（土）
会 場：TaiNEX（台湾・台北）
内 容：JAPAN PACK 2025プロモーション、その他

※第5回DXワーキンググループ会議

- 月 日：2025年 7月 2日（水）
会 場：包装機械会館（東京都中央区）
内 容：1) 「包装×DX」「包装×GX」特別企画について
2) その他

※第5回GXワーキンググループ会議

- 月 日：2025年 7月 2日（水）
会 場：包装機械会館（東京都中央区）
内 容：1) 「包装×DX」「包装×GX」特別企画について
2) その他

※記者発表会

- 月 日：2025年 8月19日（火）
会 場：包装機械会館（東京都中央区）
内 容：1) 主催者挨拶

- 2) 主要企画内容について
- 3) 開催概要について
- 4) 技術的な傾向と特徴について
- 5) 質疑応答

※第4回実行委員会

- 月 日：2025年 9月 9日（火）
会 場：包装機械会館（東京都中央区）
内 容：1) 各種活動報告について
2) 全体計画案の最終確認について
3) その他

※「JAPAN PACK 2025 日本包装産業展」開催

- 月 日：2025年10月 7日（火）～10日（金）
会 場：東京ビッグサイト（東京都江東区）
内 容：主な行事計画として以下の通り
- 1) 開会式
10月 7日（火）09：40～10：00（予定）
 - 2) オープニングレセプション
10月 7日（火）17：30～19：00（予定）
 - 3) 各種特別展示／併催企画
 - ・「包装×DX」／「包装×DX」コーナー
 - ・スタートアップ&アカデミックエリア
 - ・包装ライフサイクルコーナー
 - ・CLOMAパビリオン
 - ・IOT企画コーナー（仮称）
 - ・包装相談コーナー
 - ・学生サポートコーナー（仮称）
 - ・特別講演、専門セミナー、各種プレゼンテーション
 - ・JAPAN PACK AWARDS 2025
 - ・各種会場巡回ツアー
 - ・学生向け「研究成果発表プロジェクト」
 - ・その他

※JAPAN PACK 2025 報告会

- 月 日：2025年11月12日（水）
会 場：都内近郊（予定）
内 容：各種開催結果報告、総括討議

※上記の他、公式サイト運営、メールマガジン配信、開催案内頒布、各種パブリシティ、TOKYO PACKとの包装展相互支援の活用等によりJAPAN PACK 2025のプロモーションを推進

2) 包装学校企画運営委員会

包装学校企画運営委員会（委員長：一岡 幹朗氏 協和電機株式会社 代表取締役社長）は、包装機械メーカーの技術者、セールスエンジニアならびにユーザー企業の包装担当者を対象に、本年6月から開講の第52期包装学校の運営ならびに来期包装学校の開講準備にあたり、活動を計画・推進する。委員は自ら講師を

務めると共に、講座全体の充実化を図る。

※第123回包装学校企画運営委員会

月 日：2025年 5月20日（火）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

※第52期開講式・グループワーク（オリエンテーション）

月 日：2025年 6月18日（水）

会 場：機械振興会館（東京都港区）

月 日：2025年 6月27日（金）

会 場：大阪商工会議所（大阪府大阪市）

※第124回包装学校企画運営委員会

月 日：2025年 9月 （予定）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

※第125回包装学校企画運営委員会

月 日：2025年11月 （予定）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

※第126回包装学校企画運営委員会

月 日：2026年 1月 （予定）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

※第52期ディベートディスカッション・修了式

月 日：2026年 3月 5日（木）

会 場：東京機械振興会館（東京都港区）

月 日：2026年 3月12日（木）

会 場：大阪商工会議所（大阪府大阪市）

3) 広報推進委員会

広報推進委員会（委員長：下島 敏章 氏 ストラパック株式会社 社長）は、関連業界等と連携強化を図りながら以下の委員会活動を推進し、国内外に向けてジャパンブランドを広くアピールすることにより、当工業会ならびに会員企業ひいては関連業界各位の価値向上に寄与する。

※第33回広報推進委員会

月 日：2025年 5月13日（火）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

内 容：2025年度事業計画の詳細について

※ProPak Asia 2025日本パビリオン

月 日：2025年 6月11日（水）～14日（土）4日間

会 場：BITEC（タイ・バンコク）

出展者：株式会社旭金属、株式会社エー・アンド・デイ、

オークテック株式会社、大森機械工業株式会社、株式会社オシキリ、

川上産業株式会社、株式会社川島製作所、シコー株式会社、

澁谷工業株式会社、城南自動機株式会社、司化成工業株式会社、

株式会社塚谷刃物製作所、株式会社東京自働機械製作所、

トキワ工業株式会社、株式会社トパック、ニッカ電測株式会社、

株式会社ニッサンキコー、日本ポリスター株式会社、

株式会社古川製作所、三木プーリ株式会社、株式会社三橋製作所、

村田機械株式会社、株式会社横浜自働機、レオン自動機株式会社、
一般社団法人日本包装機械工業会
(以上、25社・団体、570㎡≒約63小間)

※JAPAN PACK 2025連携企画

月 日：2025年10月 7日(火)～10日(金)

会 場：東京ビッグサイト(東京都江東区)

内 容：・産学連携企画
・「P&M通信」特集号

※Next Package 2025出展

月 日：2025年11月14日(金)

会 場：秋葉原UDX Gallery(東京都千代田区)

内 容：・「P&M通信」アピール
・ユーザー業界との交流

※日本包装機械工業会会員セミナー(適宜)

※日本包装機械工業会セミナー〔自動化・デジタル分野、環境・包材分野〕
(適宜)

※「P&M通信」座談企画(年度内2回)

※「P&M通信」の発行(原則月2回)

※産学連携ワーキンググループ企画の実施サポート(適宜)

※APACとの連携(適宜)

※interpack 2026視察団計画準備

4) 産学連携WG

産学連携WGは(リーダー：神谷 泰仁 氏 マキー・エンジニアリング株式会社 社長)は、包装業界がいかに生活に身近かで、社会貢献度の高い業界であるかを広く周知し続け、業界の認知度を向上させるとともに、人手不足や採用難などの業界共通の課題解決に貢献することを主な目的に活動を行う。

※名城大学経営学部における講義とのコラボレーション企画①

月 日：2025年 4月11日(金)

会 場：名城大学天白キャンパス(愛知県名古屋市)

内 容：包装業界の説明

※名城大学経営学部における講義とのコラボレーション企画②

月 日：2025年 4月18日(金)

会 場：名城大学天白キャンパス(愛知県名古屋市)

内 容：包装業界の説明

※包装業界認知度向上ウェブサイト公開

月 日：2025年 4月23日(水)

※第1回採用に関する勉強会

月 日：2025年 4月25日(金)

会 場：株式会社フジキカイ(愛知県名古屋市)およびオンライン

内 容：・選考・インターンシップ参加者への手当てについて
・適性テストの活用方法について

・各階層別の研修について

※第10回産学連携ワーキンググループ会議

月 日：2025年 5月 8日（木）

会 場：オンライン

内 容：1) 包装業界の認知度向上に向けた大学とのコラボ企画について
2) 包装業界の認知度向上に向けた大学とのコラボ企画について
3) 採用力向上に向けた勉強会企画について
4) JAPAN PACK 2025産学連携企画(案)について
・研究成果発表プロジェクト最終状況確認
・業界ガイダンスおよび会場巡回ツアーについて
・学生サポートコーナーについて
・今後の予定について

※第2回採用に関する勉強会

月 日：2025年 5月27日（火）

会 場：株式会社フジキカイ（愛知県名古屋市）およびオンライン

内 容：2026年卒業の採用進捗状況について（予定）

※東京工科大学デザイン学部とのコラボレーション企画①

月 日：2025年 6月 3日（火）

会 場：東京工科大学蒲田キャンパス（東京都大田区）

内 容：コラボレーション内容詳細に関する打合せ

※名城大学経営学部における講義とのコラボレーション企画③

月 日：2025年 9月 1日（月）

会 場：名城大学天白キャンパス（愛知県名古屋市）

内 容：最終プレゼンテーション

※JAPAN PACK 2025連携企画

月 日：2025年10月 7日（火）～10日（金）

会 場：東京ビッグサイト（東京都江東区）

内 容：・研究成果発表プロジェクト企画
・研究成果パネルディスカッション企画
・包装業界ガイダンス・会場巡回ツアー企画
・学生サポートコーナー企画

※東京工科大学デザイン学部とのコラボレーション企画（適宜）

※大学開催イベント・学生イベントへの共同参加（適宜）

5) 技術委員会

業界における技術面での問題や将来的な課題を見出し、検討を具体化して会員への情報発信に繋げる

(1) 包装機械の新技术研究及び情報発信

包装機械に関わる先端技術での最新情報収集のための工場訪問及び意見交換
包装に関わる素材、環境や規格等の最新情報収集及び意見交換

(2) ISO国際規格への対応

包装機械の「ISO国内審議委員会」の運営を継続・充実させる

(3) IOT WG のサポート

包装機械の標準化仕様の基準となる IOT 活用指針の充実、及び、会員企業やユーザー等に周知を行う WG に対して支援する

(4) 警告マークの頒布

機械のオペレーターや保守担当者に危険個所を適切に表示・告知する「警告マーク」和文のみを広く包装機械・関連機器メーカーへの頒布を継続する。

6) ISO/TC313 国内審議委員会

包装機械における EN415 規格の ISO 化 (ISO/TC313) に伴って、ISO 国際会議への参加を含み、平成 29 年度に発足した「ISO 国内審議委員会」の運営を継続・充実させる。新 ISO 規格を基にした JIS 規格の着手を計画する。

ISO 国内審議委員会は、2 回/年を予定
会 場：包装機械会館（東京都中央区）

※ ISO/TC313 国際会議

月 日：2025 年 11 月 12 日（水）
会 場：イタリア ミラノ

7) IOT WG

包装機械類標準仕様の検討となる IOT 導入・活用の「指針」をまとめ、周知することにより包装機械業会及びユーザー業界双方の生産性向上に寄与する

(1) 標準化指針の周知

5 月 12 日（月）に行うウェビナーにより、メーカーユーザー及び関連団体等に広く周知を行う

JapanPack2025 において JPack-Fmt を使用したデモンストレーションを展示

(2) 標準化指針の運用

実質的運用についてメーカー及びユーザーの意見を収集し、柔軟なルール作りを目指す

(3) 包装機械ユーザーとの連携

包装機械ユーザーとの連携を行い、次のステップに共に進んでいくプロジェクトに参加する

(4) 標準化指針の充実

正式発表後に網羅されていない包装機械や関連機器について、フォーマットに取り入れる計画を立て、メンバーの再編成も行う

※JapanPack IoT 展示

時 期：2025 年 10 月 7 日（火）～10 日（金）
会 場：東京ビッグサイト（東京都江東区）

4. 会員等諸会合の開催

定款に基づき歳末特別講演会、新年賀詞交歓会、支部会を開催し、本年度事業の円滑かつ適切な推進に努める。

1) 歳末特別講演会の開催

2025 年 12 月 3 日（水）に歳末特別講演会を開催し、会員間の情報交換を推進する。

月 日：2025 年 12 月 3 日（水）
会 場：高知県（予定）

2) 新年賀詞交歓会の開催

2026年1月14日(水)に関係官公庁、当会会員、金融、関係団体の方々をお招きして、株式会社日本包装リース合同主催の2025年新年賀詞交歓会を開催する。

月 日：2026年 1月14日(水)
会 場：パレスホテル東京 4階「山吹」

3) 支部役員会・支部会の開催

2025年度事業報告ならびに2026年度事業計画案の報告ならびに会員企業からの意見・要望の聴取を目的として東日本支部会、西日本支部会を開催する

※第4回東日本支部会

月 日：2026年 3月10日(火)
会 場：包装機械会館(東京都中央区)

※第4回西日本支部会

月 日：2026年 3月11日(水)
会 場：(大阪)

5. 調査、各種情報収集・提供等に関する事業

国内外の包装機械・関連機器に関する技術情報や関連規格等の情報を調査・収集し、広く一般に公開してわが国包装機械産業・関連機器産業の技術高度化ならびに需要業界の包装合理化に資することを目的として、本年度は次の事業を推進する。

1) 包装・荷造機械生産高・輸出入高の調査

わが国の包装機械メーカーを調査対象として、2024年度の生産高と輸出入高ならびに2025年度の生産計画の調査を実施する。

調査結果については「包装機械及び荷造機械生産高・輸出入高統計資料」としてまとめ、会員企業をはじめ広く一般に頒布・公開する。

2) 技術情報の収集・提供等

(1) 技術センター事業

技術委員会で工業会における技術事業のあり方を検討し、技術センターの事業方針を決定する。そして技術委員会で決定した事業に取り組む。

また、従来検査センターの事業として行ってきた、包装機械および関連機器の安全性・衛生性高度化の周知・啓蒙を推進し、労働災害事故の発生を抑えることによってユーザー業界からの信頼性を高め、包装機械産業の発展に貢献することを継続する。

(2) 包装技術相談と引き合いの斡旋

国内外のユーザーからの包装機械・関連機器等に関する各種技術相談を受け付け、製品引き合いに対する会員企業等への斡旋事業を推進すると共に会員企業からの技術開発の向上に関する相談の推進と関係資料の配布に努める。

(3) 機械安全・衛生指導事業

①CEマーキング、リスクアセスメント、「包装・荷造機械の安全基準－2013」等、安全/衛生の技術相談に対応する。

②包装機械が、「包装・荷造機械の安全基準－2013」・「包装・荷造機械の衛生基準－2018」に適合しているかの相談業務を行う。

(4) 「包装・荷造機械の衛生基準－2018」の普及、啓蒙、指導

2017年度に当会の自主基準である「包装・荷造機械の衛生基準－20

18」を制定し、会員企業を中心にユーザー業界等に配布したが、本年度は昨年度に引き続き、本基準がわが国の包装機械製作の際の基準であることの普及、啓蒙ならびに指導に努める。

(5) 各種資料・情報の収集・公開

国内外の包装機械関連の技術情報、規格および統計資料等の収集を行い、会員企業をはじめ広く一般に公開する。

3) 各種情報の発信等

(1) 機関媒体の発行に関する事業

WEB版機関誌「パッケージ&マシン通信」(A4サイズ・購読料無料)を毎月2回メール配信し、わが国の包装機械、関連機器、包装資材等の新製品・新技術情報や当会事業活動、国の施策や機械統計(経済産業省)、貿易統計(財務省)等情報の包装機械業界およびユーザー業界へ周知・広報により、包装業界と需要業界を結ぶ橋渡し役を担う。

6. 人材育成、セミナー、講習会に関する事業

1) 包装学校

わが国包装機械メーカーの技術者、セールスエンジニアならびにユーザー企業の包装担当者を対象として、昭和49年度から包装学校を開講しており、本年度は第52期を迎えることとなった。修了者においては昨年度の第51期まで5,427名を数え、包装機械業界はもとよりユーザー業界からも包装機械に関する唯一の人材育成機関として極めて高い評価を得ている。

本年度は2025年6月から2026年3月までの10カ月間、第52期包装学校を開講して、包装機械業界ならびにユーザー業界包装担当者の人材育成・高度化に努める。

コロナ渦において座学講座をオンデマンドビデオ配信システムへ移行したが、本来の対面講座の要望も高く、講座を順次対面に移行しより受講生間のコミュニケーションを取れる形にしていく。一方で、自由な時間に繰り返し、柔軟に受講できるオンデマンド講座の要望もあることから、2つの方式を併設するハイブリッド型カリキュラムとする。

各課程の受講料(税別)は次の通りである。

NO	課程名	会 員	非会員
1	包装機械設計技術専門課程	¥340,000	¥390,000
2	パッケージングエンジニア専門課程	¥320,000	¥370,000
3	デジタル制御技術専門課程	¥110,000	¥160,000

注意) デジタル制御技術専門課程は、PLCメカトロ制御講座の1講座のみ開催

2) 青年部会

青年部会(部会長:古城 美将 氏 城南自動機株式会社 社長)は、次代の経営幹部の育成ならびに会員相互の親睦を図るため、当会工業会の定款に定める目的に従い以下の部会活動を推進する。

※2025年度定時総会

月 日: 2025年 4月 9日(水)

会 場: 包装機械会館(東京都中央区)

内 容: 2024年度事業報告書(案)の承認について

2025年度役員体制（案）の承認について
2025年度事業計画書（案）の承認について

※チームビルディング活動（ボウリング大会）

月 日：2025年 4月 9日（水）
会 場：東京ドームボウリングセンター（東京都文京区）

※第93回幹事会

月 日：2025年 5月 8日（木）
会 場：包装機械会館（東京都中央区）／オンライン
内 容：2025年度事業全体計画案について

※第94回幹事会

月 日：2025年 7月16日（水）
会 場：包装機械会館（東京都中央区）
内 容：第1回勉強会、夏季セミナー、JAPAN PACK 2025連携
企画、海外包装市場視察ツアーについて

※第1回勉強会

月 日：2025年 7月16日（水）
会 場：包装機械会館（東京都中央区）
テーマ：未定

※夏季セミナー

月 日：2025年 9月 3日（水）・ 4日（木）
会 場：軽井沢（長野県北佐久郡）近郊
行 事：第2回勉強会、情報交換会、懇親ゴルフコンペ

※JAPAN PACK 2025連携企画

月 日：2025年10月 9日（木）
会 場：東京ビッグサイト（東京都江東区）
内 容：パネルディスカッション（予定）

※第3回勉強会

月 日：2025年11月
会 場：包装機械会館（東京都中央区）
テーマ：未定

※海外包装市場視察ツアー

月 日：2025年11月以降
視察先：台湾（予定）
行 事：現地工場見学会、交流協会事務所でのブリーフィング、
現地スーパーマーケット視察、情報交換会（予定）

※2026年新年情報交換会

月 日：2026年 1月13日（火）
会 場：（未定）

※第4回勉強会

月 日：2026年 2月
会 場：包装機械会館（東京都中央区）
テーマ：未定

※第95回幹事会

月 日：2026年 2月
会 場：包装機械会館（東京都中央区）／オンライン
内 容：・2025年度事業報告書（案）の承認について
・2026年度役員体制（案）の承認について
・2026年度事業計画書（案）の承認について

※第4回JBCM・JPMA青年部会交流会

月 日：未定
会 場：未定

※会員名簿PDF版の運用

※その他、一般社団法人日本包装機械工業会の定款に定める目的に従って活動を促進するとともに、次代の経営幹部の育成並びに会員相互の親睦を図る。

3) 各種セミナー・講習会

(1) 厚労省通達「設計技術者に対する機械安全教育」講習会開催

日本包装機械工業会は職業能力開発総合大学校、（一社）安全技術普及会、職業能力開発総合大学校と共催で講習会を継続開催する。

開催場所・・・オンライン

- ① 機械の安全化と国際安全規格（2日）
2025年12月 4日（木）、 5日（金）
- ② 機械安全におけるリスク低減（2日）
2026年 1月15日（木）、16日（金）
- ③ リスクアセスメントの実践と妥当性確認（2日）
2026年 2月 5日（木）、 6日（金）
- ④ 電気と制御システムの安全設計編（2日）
2026年 3月 5日（木）、 6日（金）

上記①～④修了者に「修了証明書」を発行する。

(2) IEC 60204-1/JIS B 9960-1対応

「実習で学ぶ制御盤の安全検証試験」講習会開催

高度ポリテクセンターと共催で講習会を開催する。

- 関東会場 高度ポリテクセンター（定員：15名）
2025年 9月 2日（火）、 3日（水）
関西会場 ポリテクセンター京都（定員：15名）
2026年 2月17日（火）、18日（水）
新潟会場 ポリテクセンター新潟（定員：15名）
2025年 9月 9日（火）、10日（水）

7. 国の施策に関する事業

1) 中小企業等経営強化法に係る証明書発行に関する事業

2017年7月にスタートした「中小企業等経営強化法」の証明書発行団体として、2017年8月から証明書の発行を開始し、ユーザー業界への設備投資促進に努め、累計10,957通の証明書を発行した。本年度も引き続き証明書の発行を行い、わが国包装機械・関連機器の販売促進に努める。

2) その他各種施策への対応

人手不足解消に効果がある汎用製品の導入支援に対する施策「中小企業省力化投資補助金」への対応、周知に努める。

8. その他関連事業

1) 包装機械会館の運営に関する事業

株式会社日本包装リースならびに株式会社包装システムと協調し、6階部分の賃貸、2階会議室の貸し出しを促進すると共に包装機械会館の運営・保守保全に努める。

2) 会員企業の販売促進、経営安定化に関する事業

株式会社日本包装リースとの協調によるリース販売の促進、事業承継サポートプログラムの利用促進、ならびに出資業務・アドバイザー業務などの会員向けサービスの利用促進に努める。また株式会社包装システムと協調し、PL保険・包装機械総合保険への団体加入の促進に努める。

3) 福利厚生に関する事業

全国印刷製本包装機械企業年金基金および印刷製本包装機械健康保険組合の事業に積極的に協力し、加入者の福利厚生事業の充実に努める。

4) 関連産業との連携

(一社)日本食品機械工業会、(公社)日本包装技術協会、(一社)日本食品包装協会、(一社)日本粉体工業技術協会をはじめ、包装関連産業、食品関連産業、製パン・製菓産業、印刷機械産業、電気・電子機器産業などの産業連携や、包括連携協定を締結している東京工科大学工学部との連携、ならびに CLOMA 等の官民連携も推進し、包装機械業界の発展に努める。